

保護者の皆様

可部つちくれの家

平成 29 年 6 月 5 日

施設長 米田香代子

## 施 設 だ よ り 6 月

新緑が目に眩しく映る6月。5月からの晴天が続き、2日から始まった今年の『とうかささん』は開催日すべて晴天に恵まれ、例年になく多くの浴衣姿の若者や子供たちの姿が見受けられたようです。

さて、つちくれの5月の青空には、昨年いきいきの仲間みんなで作った黒・赤・青(大・中・小)の「みんなの鯉のぼり」に加え、今年新たに一人ひとりが作った素敵な「自分の鯉のぼり」も掲げられていました。

今月はいきいきクラス「鯉のぼり制作」の五感をしっかり使った

今年度の取り組みと、リボンの新しい活動について、お伝えしたいと思います。

4月半ばからのいきいきでは、活動の導入として、昨年みんなと一緒に作った共同作品

“3匹のみんなの鯉のぼり”を室内に飾り昨年も取り組んだ“鯉のぼりの曲”を聴き、“鯉のぼり写真絵本”や散歩で近隣の本物の「鯉のぼり」を見ました。

昨年作った「みんなの鯉のぼり」の揚げ式も、玄関横で雨の日を除く毎日行いました。

このような導入活動を通していきいきの仲間たちは、昨年の鯉のぼり制作の記憶を思い出したことでしょう。

昨年の記憶を甦らせる事で、今年制作活動への意識がさらに高まり、意欲も高まってきたことと思います。

次に、「今年どんな鯉のぼり作るか」仲間と職員で考えていく中で『ことばの世界』を

持つ仲間の思いを聞き、『ことばの世界』に弱さを抱えている仲間の表情から彼らの願い

や思いを読み取り、今年は「自分の鯉のぼり」を作ろうと決めたようです。

一人ひとり白い筒状の布をもらい、今までに何度も経験したように絵筆に、お気に入りの色の絵の具を染み込ませ、思い思いの「自分の鯉のぼり」を完成させました。

完成させた「自分の鯉のぼり」を持って揚げ式に参加した仲間の視線は、それぞれ持続時間の差こそありましたが、「みんなの鯉のぼり」と「自分の鯉のぼり」を目の前で見比べていました。また、青空のもとに高く揚がった二種類の鯉のぼりに、眩しい視線を送ったりしながら自信に満ちた満面の笑みが顔からこぼれていました。

1日の活動で完結するのでない、今日の活動を明日に繋げる。去年の取り組みを今年も継続して行うという連続性のある、しかも一歩進めた楽しい活動を展開します。こうした実体験を積み重ねることで、仲間は作った作品や取り組みへの思い入れが強まり、ワクワクしながらやり切った達成感を心の底から感じることができ、より確かな記憶として一人ひとりの頭に再び刻まれたことと思います。

昨日リボンの4名の女性たちは、保護者の小寺さんのボラ支援を受けながら、初めての小物作りに参加しました。今まで針と糸を使っての手芸に取り組む機会に恵まれなかった人たちも、プロの指導の下、最初はとてもしこちなさを感じましたが、くるみボタンの「プレスレット」や「髪留め」を作っていく中で針を持つ手が少しずつスムーズに動くようになり、リボンの入居者9人分と宿泊体験に来る仲間1人を合わせた10人分の『コースター』作りを楽しみました。月曜から皆で使おうと話す、誇らしい顔の4人でした。